



# 神話の源流

くはじまりの物語

二人の女神に出逢う  
西都・西米良の旅

神話の源流へ。  
宮崎県

神話の源流へ。～みやざき神話ストーリー～

# 繁栄と永遠の象徴、 コノハナノサクヤヒメと イワナガヒメ

アマテラスオオミカミから葦原中国(あしはらのなかつくに)を治めるようにと遣わされ、地上に降り立ったニニギノミコトは、桜の花が咲きほこるかのような美しい娘に出逢います。娘の名は「コノハナノサクヤヒメ」。オオヤマツミノカミという山の神の娘でした。

一目で恋に落ちたニニギノミコトは、早速、オオヤマツミノカミにコノハナノサクヤヒメと結婚したい気持ちを伝えます。喜んだオオヤマツミノカミは、姉のイワナガヒメも一緒にニニギノミコトのもとへ嫁がせましたが、ニニギノミコトは醜い容姿をしたイワナガヒメを恐ろしく思ってオオヤマツミノカミのもとへ追い返してしまいます。

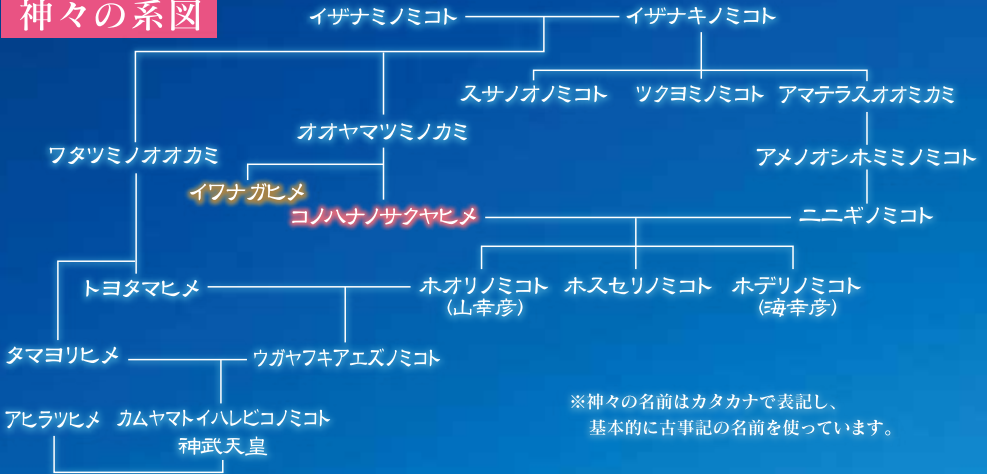
このことにオオヤマツミノカミは激しく怒り、「私は、イワナガヒメを妻とすることで、天孫の命がずっと変わらない岩のごとく永遠であるように、コノハナノサクヤヒメを妻とすることで、木の花が咲き栄えるごとく繁栄するように、という祈りを込めて嫁がせました。イワナガヒメを返してコノハナノサクヤヒメだけを妻とされたので、天孫の命は花のように儂いものになってしまうでしょう」と呪いました。

ニニギノミコトとの出会いによって別々の運命を歩むことになったイワナガヒメとコノハナノサクヤヒメ。2人の物語が西都市と西米良村に残されています。それぞれの生き方に思いを馳せる旅へ出かけましょう。





## 神々の系図



## 姉妹それぞれの喜びや悲しみを感ずる地、 西都・西米良。

### 1 西都市 コノハナノサクヤヒメの美しさと母なる強さに力をもらう旅 ..... P.2

桜の化身ともいわれる美しき妹コノハナノサクヤヒメ。美しさと母の強さを兼ね備えたコノハナノサクヤヒメの物語を感じる旅へ。

### 2 西米良村 イワナガヒメの悲しみを見守る郷びとの心にふれる旅 ..... P.8

ニニギノミコトに受け入れられなかったイワナガヒメ。その悲しみを今に伝え、思いを大切にする郷びとの心にふれる旅へ。



[神話エッセイ]

## 女神に出会う旅

神話というと、古い言葉で書かれていて難しそう、と思われがち。

でも、物語を思い浮かべながら舞台とされている土地を歩くと、神話もぐっと身近に感じられます。神様の息づかいも聞こえてきそう、という場所もあります。

日本神話の美女といえば、コノハナノサクヤヒメ。わたしたち日本人がよく愛する桜の花のような女神です。女神のあまりの美しさに天から下ってきた貴い神ホノニギも一目で恋に落ち、その場で結婚を申し込んだと伝えられています。

そんなコノハナノサクヤヒメを感じることでできる場所が、西都市の記紀の道です。

逢初川は、そのロマンチックな名のとおり、コノハナノサクヤヒメとホノニギの出会いの場所。ここで水くみをしていた女神を、ホノニギが見初めたと伝えられています。いまでも清水がこんこんと湧き出ている、女神の美しさの秘訣は水だろうか、と感じさせます。

逢初川のすぐそばに「八尋殿」と記された碑が建っています。水辺で出会った二柱の神は、出会いの場所近くに新居を設け、暮らしたようです。そこから数分歩くと大きなクスノ木があり、下に建つ碑文には「無戸室跡」という文字が見えます。

ホノニギが、女神のお腹の中にいる子が自分の子なのかと疑ったため、その疑念を晴らすべく、戸のない産屋を建て、その「無戸室」に火を放ち、「ホノニギの子でなければ無事には生まれないうらう」と言い、見事に三柱の



男子を産みます。ただ美しいだけではない、激しさも持つコノハナノサクヤヒメの姿が目には浮かぶようです。

疑いを晴らした女神はどんな思いで子どもたちを抱き上げたのでしょうか。そんなことを考えながら、産湯を使ったという児湯の池へ。

美しい女神と天から訪れた貴い神。出会い、恋に落ち、結ばれる。子宝に恵まれるも、二神の間には波風も立ちます。この夫婦のその後は？仲直りして幸せに？それとも・・・？

神話も語らない夫婦のその後に思いを馳せつつ、記紀の道の終点男狭穂塚と女狭穂塚へ。二つ並んだ大きな古墳です。被葬者については複数の説があるようですが、ホノニギとコノハナノサクヤヒメの陵墓という伝承もあります。地域の人々は、二つ並んだ古墳に、二神がいまも肩を並べ、仲良く過ごしている姿を思い描いてきたのでしょうか。神話とともに暮らしてきた土地の人々の神への思いを感じます。

忘れてはいけないのが記紀の道の出発点、都萬神社です。青々とした緑に囲まれたこの神社のご祭神はコノハナノサクヤヒメ。

七月七日の七夕の日に行われているのは、更衣祭という女神の婚礼を再現するとても珍しい神事です。女神のご神体に化粧をほどこし、その衣を白く真新しいものに替えます。そしてご神体は神殿前へ。

そう、このときばかりは、わたしたちも女神に会うことができるのです。神話を感じ、神に出会う記紀の道。それは人々が大切に守り伝えてきた神への思いを感じる旅でもあるのでしょうか。

國學院大學准教授 平藤喜久子

※ホノニギ:ニニギノミコトのこと



#### 【執筆者紹介】

平藤喜久子(ひらふじきこ)

学習院大学人文科学研究科博士課程後期課程修了。博士(日本語日本文学)。主な著書に『神話学と日本の神々』(弘文堂)、『神の文化史事典』(共著、白水社)、『日本の神様と楽しく生きる』(東邦出版)、『神社ってどんなところ?』(ちくまプリマー新書)など。

鬼をも魅了した繁栄の象徴、  
コノハナノサクヤヒメ。  
その美しさに迫る。

## コノハナノサクヤヒメと 鬼の伝説が残る「西都原」

花が咲いたような美しさから天孫ニギノミコトに一目で見初められたコノハナノサクヤヒメ。その美しさにまつわる伝説が西都原古墳群周辺に残されています。

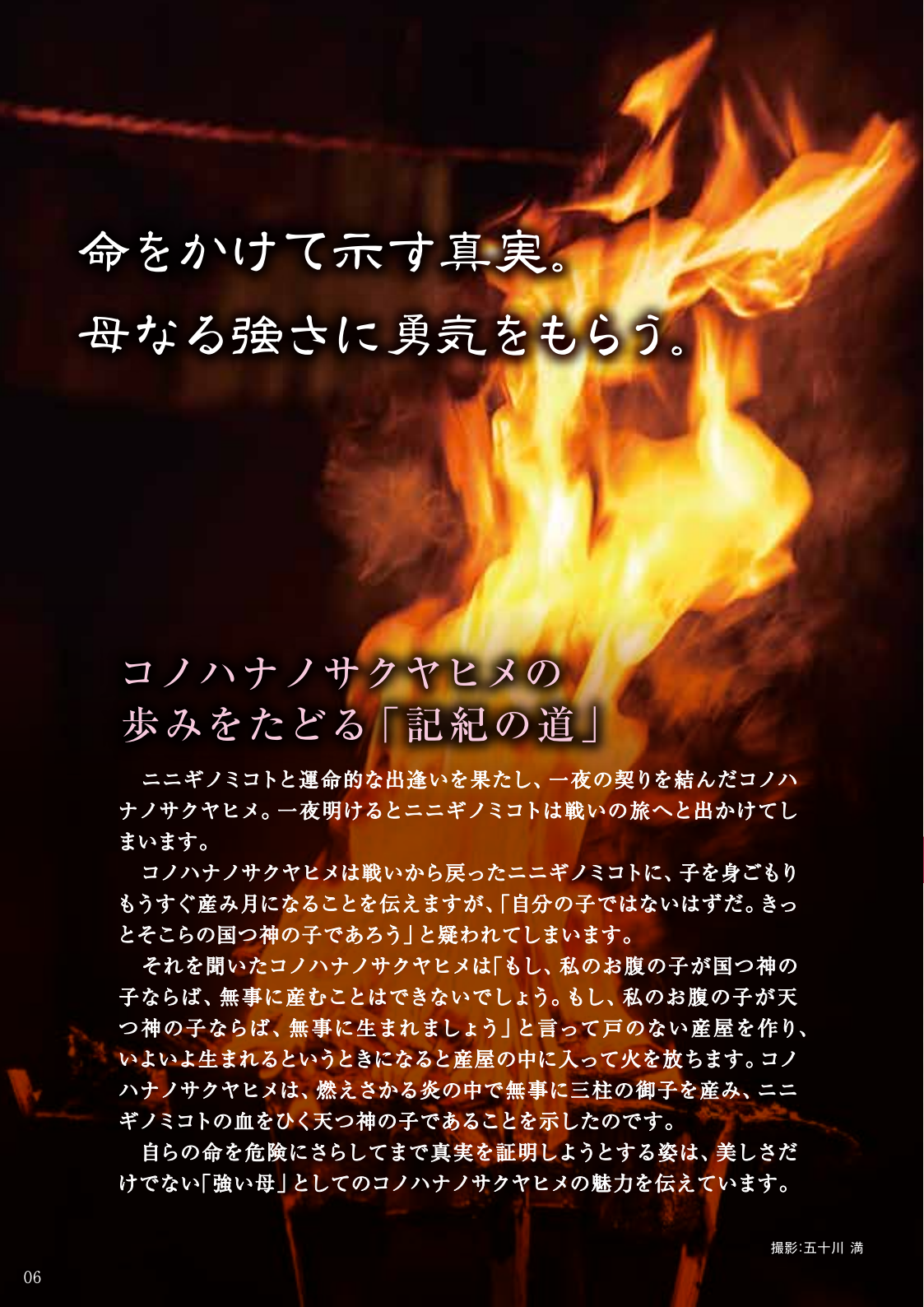
コノハナノサクヤヒメがニギノミコトに出逢う前のこと。鬼がコノハナノサクヤヒメの美しさに心を奪われ、父神のオオヤマツミノカミにコノハナノサクヤヒメとの結婚を乞いました。

考えた末にオオヤマツミノカミは「一夜で窟(いわや)を完成させることができたなら娘をお前に嫁がせよう」と鬼に条件を出します。早速鬼は窟づくりに取りかかり、あっという間に窟を完成させると安心して寝てしまいました。様子を見に来たオオヤマツミノカミは、すでに窟が完成していることに驚き、こっそりと窟から石を抜いて投げ捨てます。

朝になって鬼は窟の完成を報告しましたが、オオヤマツミノカミは石が足りないことを理由に結婚の申し出を退けました。父神の機転のおかげで、コノハナノサクヤヒメは鬼と結婚せずすみ、ニギノミコトと運命的な出逢いを果たしたのです。







命をかけて示す真実。  
母なる強さに勇気をもらおう。

## コノハナノサクヤヒメの 歩みをたどる「記紀の道」

ニニギノミコトと運命的な出逢いを果たし、一夜の契りを結んだコノハナノサクヤヒメ。一夜明けるとニニギノミコトは戦いの旅へと出かけてしまいます。

コノハナノサクヤヒメは戦いから戻ったニニギノミコトに、子を身ごもりもうすぐ産み月になることを伝えますが、「自分の子ではないはずだ。きっとそこらの国つ神の子であろう」と疑われてしまいます。

それを聞いたコノハナノサクヤヒメは「もし、私のお腹の子が国つ神の子ならば、無事に産むことはできないでしょう。もし、私のお腹の子が天つ神の子ならば、無事に生まれましょう」と言って戸のない産屋を作り、いよいよ生まれるというときになると産屋の中に入って火を放ちます。コノハナノサクヤヒメは、燃えさかる炎の中で無事に三柱の御子を産み、ニニギノミコトの血をひく天つ神の子であることを示したのです。

自らの命を危険にさらしてまで真実を証明しようとする姿は、美しさだけでなく「強い母」としてのコノハナノサクヤヒメの魅力伝えていきます。





## 都萬神社

コノハナノサクヤヒメが住んでいたところと伝わる地にあり、古くから縁結び・安産の神として知られています。また、コノハナノサクヤヒメがお乳の代わりに甘酒を与えたという言い伝えから日本酒発祥の地ともいわれます。

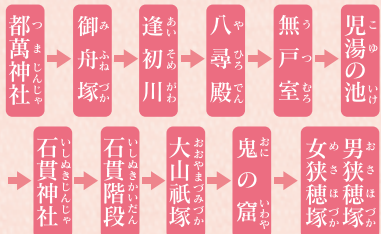
所在地: 西都市大字妻1 TEL:0983-43-1238

## 記紀の道

ニニギノミコトとコノハナノサクヤヒメにまつわる伝承地を1つの観光ルート(都萬神社～西都原古墳群)まで結んだものです。コノハナノサクヤヒメの物語をたどることができます。

お問合せ: 西都市観光協会 TEL:0983-41-1557

### 記紀の道・順路



無戸室



児湯の池



鬼の窟



男狭穂塚

## 周辺観光Info.

## Information

### 神代の恋物語に思いを馳せる。



### 都萬神社「七夕更衣祭」

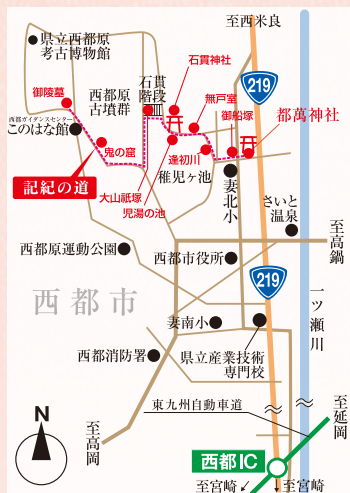
都萬神社で毎年7月6日～7日に開催される祭り。7日の更衣祭は、コノハナノサクヤヒメのお嫁入りの様子が再現される全国でも珍しい神事です。ご神体を拝観できるのは1年でこの日だけということもあって、良縁、安産を祈願する多くの女性が参拝に訪れます。

開催日: 毎年7月6日～7日 開催場所: 6日/高鍋町日置浜、7日/都萬神社  
お問合せ: 西都市観光協会 TEL:0983-41-1557

### 西都古墳まつり

西都原を中心に開催される祭り。1日目の夜には、都萬神社から御陵墓前広場までのたいまつ行列のほか、ニニギノミコトとコノハナノサクヤヒメの恋物語を炎と舞で表現した炎の祭典が開催され、多くの人で賑わいます。

開催日: 毎年11月第1土曜日～日曜日  
開催場所: 西都市御陵墓前広場ほか  
お問合せ: 西都市観光協会 TEL:0983-41-1557



芋がらの酢の物 ゆずみそ 鹿から揚げ 食べば小皿の白さあらわる

昼食は、おがわ作小屋村で四季御膳をいただく。茅葺屋根が懐かしい母屋で、食事は地域のお母さん達の手作り。土地の旬が彩り豊かに並ぶ、見ても食べても嬉しい御膳だ。配膳してくれたのは素敵な青年。素敵なだけではなく、村の人口推移や、若者の比率について丁寧な説明をしてくれ、まことに頼もしい。

### 米良弁の訛りぬくとしやわらかき和紙に双耳は包まれゆけり

西米良温泉ゆた〜とは語り部イベント「秋の語り」と申すカッチン」が催されていた。西米良に残る民話や伝承を、語り部の方々が米良弁で調子をつけて話してくれる。「と申すカッチン」と言つて手を一回叩くと「おしまい」の合図。こゝは聴衆も声と手を合わせる。賑やかなトーン話もソゾッとこわい話も、この締めくくりで現実にあふつと引き戻される。なんだか癖になりそうだ。

### 笛の音は櫂、太鼓の音は舟として九月の風のなか漕ぎいだす

旅の終着点は村所八幡神社。後醍醐天皇の第九皇子・懐良親王かねながを主祭神とする神社で、六百年の歴史ある村所神楽が伝わる。瀆砂宮司によると、十二月の神楽に向けてこれから準備が始まるとのこと。宮司は舞も、楽の演奏もされる。この日は特別に太鼓と笛を実際に演奏してもらえることに。真冬の夜神楽ならぬ、晩夏の昼神楽の趣である。戸を開け放した社殿に響く楽は、木々の枝の撓りや、風と風が纏れる音、自然の息遣いと一体となつてゆくのがわかる。このひとときの体験は見えざる「なにか」の存在を確かに私に感じさせてくれたのだった。

※このエッセイでは日本書紀に基づいて神々の名前を記載しています。



「神話エッセイ」

## 西の米の良き村

歌人 小島 なお

川は空の姿見ならんおそ夏のひかりは水に身を投げてゆく

西の米の良き村。その名の通り、実りを迎えた稲がざらざらと重たく揺れる。九月某日、快晴。旅の初めの目的地は米良神社。そこに祀られる磐長姫イワナガヒメに会いに行くのだ。

妹はかの有名な木花開耶姫コハナノサケヤヒメ。天照大神の孫・瓊瓊杵尊に見初められた美人の妹である。父・大山祇神オオヤマツミノカミの意向により、妹と一緒に妻として奉られたが、顔がよろしくないという理由で姉だけつき返されてしまう。いつの時代も世は残酷であることよ。父も父である。娘の気持ちをもっと慮ってほしい。などと、平成で生きる私の現代的感想はさておき、意外に逞しい磐長姫は失意のままに彷徨った末、辿り着いた地で稲作を伝え、楽しく暮らした。そして長い年月の後、老いた体の不自由さを歎き米良神社の裏に流れる小川おかわがわの淵に身投げしたという。

土持宮司が、姫が投身したとされる場所を教えてくださいました。水深があるのか水面のそこだけが暗く濃く、冷たい色をしている。この世ならざる世界がまたあるく口を開けているようだ。結婚、仕事、老いとは。磐長姫の生涯の哀しみと不思議を思う。対岸の鎮守の森は女人禁制の神山。女性が入ると嫉妬を生むとされ、本殿を見た女性は未だかつていないとか。



### 【執筆者紹介】

歌人 小島 なお

1986年、東京生まれ。2004年、角川短歌賞受賞。2007年、コスモス入会。歌集に「乱反射」（現代短歌新人賞）、「サリンジャーは死んでしまった」。2016年度には『NHK短歌』選者を務める。

# イワナガヒメの悲しみを 優しく見守ってきた米良の郷びと。

## イワナガヒメの心を癒やした 「西米良村」

その醜さゆえにニギノミコトに拒絶されてしまったイワナガヒメ。追  
い返されたその後の物語が、西米良村に語り継がれています。

ニギノミコトに返されたイワナガヒメは、毎日毎日鏡をのぞいては自  
分の醜さを嘆き悲しんでいました。ある日いつものように鏡をのぞいてみ  
ると、いつにもまして恐ろしい顔が映っているではありませんか。驚き悲  
しんだイワナガヒメは、鏡を放り投げて家を出てしまいます。

失意のイワナガヒメは、西米良村の小川地区にたどり着き、そこで余生  
を過ごしたとされます。小川での生活は、自然に囲まれ米良の郷びととと  
もに過ごす穏やかなものだったようで、イワナガヒメ自ら米や野菜を育て、  
それが常に豊かに実ったので、「ヨネヨシヨネヨシ(米良)」と言って喜んだ  
のが、「米良(めら)」という地名の由来になっているともいわれています。

心に負った傷は深かったのか、晩年には米良の川に身を投げたと伝わ  
るイワナガヒメ。その悲しみに米良の郷びとは寄り添い、大切に語り継い  
できました。





## 米良神社

イワナガヒメは、晩年に身の不自由を嘆いて今の米良神社のそばの小川川に身を投げたと伝わります。その遺骸は、川を挟んで対岸にある「神山」に葬られ、そこが米良神社の本殿です。自らの醜さを恨んでいたイワナガヒメの怒りを買わぬよう神山は女人禁制とされています。

所在地: 西米良村小川988 TEL:0983-37-1112

## 狭上稲荷神社

イワナガヒメを探しにやって来た父オオヤマツミノカミが、イワナガヒメがすでに亡くなったことを知り、深い悲しみの末にこの地にたどり着いて最期を迎えたと伝わります。冬には見事な雲海が見えることもあり、神秘的なたたずまいが魅力です。

所在地: 西米良村村所503  
TEL:0983-36-1202

※ 標高700メートルの高地にあり、神社までは険しい道が続きます。運転には十分ご注意ください。



# 西米良の神楽



歌・小島なお

撮影:五十川 満



歌・小島なお

撮影:五十川 満

宮崎県無形民俗文化財に指定されている西米良神楽。村内各地区の神社で奉納されます。南北朝時代に南朝方の公家武将が村に落ち延び、京の都で舞われていた舞を舞ったのが始まりとされ、京都風雅な神楽が西米良の土着的な山岳信仰や狩猟文化と習合しながら発展し、長い年月をかけて伝承されてきました。

午後7時から日曜日午前7時にかけて、各地区の神社で33番が奉納されます。

## 越野尾神楽

開催場所: 児原稲荷神社 開催日: 11月第4土～日

隣接する西都市銀鏡(しろみ)から継承されたと伝わり、「栗三郎」などの土地神様が出現します。

## 狭上神楽

開催場所: 狭上稲荷神社 開催日: 12月第1土～日

西米良神楽の原点に近いとされ、白い狐面の「眷属様」が面棒と榊の葉を持って舞うなど独特の舞もあります。

## 小川神楽

開催場所: 米良神社 開催日: 12月第2土～日

「磐長姫命」の演目では、主祭神であるイワナガヒメが登場し、美しい女面を付けて華麗に舞います。

## 村所神楽

開催場所: 村所八幡神社 開催日: 12月第3土～日

社人といわれる者しか舞うことを許されず、神事的な「神神楽」と賑やかな「民神楽」で構成される多彩な神楽です。

※日程については、変わることがありますので、西米良村観光協会(0983-36-1111)までご確認の上お越しください。



# イワナガヒメの心を癒やした 四季折々の自然に触れる。



イワナガヒメの物語に触れたら、次は西米良の大自然へ。  
四季折々の景色とともに遙か昔から連綿と受け継がれた歴史を感じる  
イベントが盛りだくさんです。



## 春



### 祭 山菜まつり

地採れ山菜・特産品の販売や、山菜料理の実演販売など西米良の春の旬が大集合。小川神楽も披露されます。

開催場所: おがわ作小屋村 開催日: 毎年5月3日



## 夏



### 祭 やまびこ花火大会

一ツ瀬川の河原で開催され、周囲が山で囲まれているため、花火の音が強烈な「やまびこ」となって渓谷に響き渡ります。みどころはフィナーレを飾るナイアガラです。

開催場所: 西米良村村所(河川敷)  
開催日: 毎年8月第1土曜日

### 🍴 にしめら川床

川床とは納涼床ともいわれ、川の上や岸辺につくられる座敷のこと。水音と川面の涼を感じながら食事や飲み物を楽しめる西米良夏の風物詩です。

開催場所: 西米良温泉ゆた〜と  
開催期間: 毎年7月中旬〜9月中旬





# 秋



## 祭りにしめら山まつり

西米良村の歴史や文化を楽しむ祭り。歴代の名君に扮した「武者行列」やこの地域に伝わる精霊カリコボーズの声にちなんだ「やまびこ大声選手権」などが行われます。

開催場所: 村所驛(むらしよえき) 西米良村大字村所96-1  
開催日: 毎年11月中旬頃



## 祭りの月の神楽

照明を使わず、自然の月明かりと燃えさかる松明のもと、幻想的な雰囲気の中で神楽が披露されます。当日は竹灯籠が飾られ、花火も打ち上げられます。

開催場所: おがわ作小屋村 開催日: 毎年中秋の名月頃

## 祭りのカリコボーズのひなまつり

顔は名物の「ほおずき」、体は竹でつくられた雛飾りなどの珍しい雛壇をはじめ、村内各所がひな祭り一色となります。このときならではのおもてなしも魅力です。

開催場所: 西米良温泉ゆた〜と、湖の駅など村内各所  
開催日: 毎年2月〜3月下旬



# 冬

## 周辺観光Info.

## Information

### 豊かな山の人びとの暮らしにふれる



#### 西米良温泉 カリコボーズの湯 ゆた〜と

「ゆた〜と」とは方言で「のんびり」という意味。大自然に囲まれた露天風呂のほか、岩風呂と檜風呂の2種類が楽しめます。初夏には新緑、秋には紅葉を間近に見ながらの入浴も楽しめます。

所在地: 西米良村大字村所260-6 電話0983-41-4126  
営業時間: 10:00~22:00(季節、浴場によって異なる。食事処は10:00~21:30)  
定休日: 毎月第3水曜日、元旦

#### おがわ作小屋村

かつて米良の中心地として栄えた小川地区にあり、西米良の歴史と文化を伝える民俗資料館、宿泊施設などがあるほか、特産品の販売や郷土料理の提供などを行っています。

所在地: 西米良村大字小川団254 電話: 0983-37-1240  
営業時間: 10:00~17:00(食事処は10:30~15:00)  
定休日: 毎月第4水曜日、年末年始



# 西都・西米良の特産品

豊かな自然とそこに息づく



## 完熟マンゴー

ご存じ「宮崎マンゴー」発祥の地、西都市。今では常識になったネットを用いた栽培方法も生産者の長い年月をかけた努力から生まれたものです。あふれる果汁ととろけるような食感が大人気！



## 完熟きんかん

加工用よりも大きくて甘く、『生』のままで皮ごと丸かじりできるのが特徴です。その中でもよりすぐりの甘さと大きさのものは完熟きんかん「たまたま」として出荷されます。宮崎完熟きんかんだからこそできる皮ごと丸かじり、ぜひお試しを。



## 西都牛

「柔らかさ」「味わい」が特に優れているとされる西都牛。提供している飲食店は揃いのほりを掲げているので、西都に来た際はぜひご賞味を。

## ピーマン

グリーンザウルスの名前で親しまれている西都のグリーンピーマン。どんな調理法にもマッチする使い勝手の良さが魅力です。



文化が育んだ逸品たち——。神話の旅と一緒にいかがですか？

### ほおずき

西米良のほおずきは、鮮やかな朱色と実の先ですっと伸びたハート型が特徴。贈答用や観賞用のほか、灯りなどに加工する「ほおずきアート」の体験もできます。



### 西米良サーモン

カワマスとエゾイワナのかけ合わせによって誕生した西米良の特産品です。刺身にするとサーモンよりもさっぱりとした味わいです。村内では西米良温泉ゆた〜とで提供しています。

### ゆず

西米良を代表する農作物「ゆず」。皮を削いで汁物にいられたり、細く切って煮物に添えたりとさまざまな郷土料理に用いられています。「ゆずしょう」「ゆず茶」「ゆずようかん」などその風味を生かした加工品も多数あります。



### おがわ四季御膳

お膳には16の小皿が並び、四季折々の旬の素材を使った料理や小川地区の伝統の味が楽しめます。おがわ作小屋村で提供されています。



# 西都・西米良MAP



## 西米良村

## 西米良コース

## 西都市

## 西都コース

至熊本県

木城町

西米良温泉  
かりこぼすの湯  
ゆたへど (P.13)

狹上稻荷神社 (P.11)

西米良村役場  
カリコボースの宿  
川の駅「白菜屋」

米良神社 (P.11)

おがわ作小屋村 (P.13)

一ツ瀬ダム

湖の駅

日本一の木造車道橋  
かりこぼす大橋

川仲島運動公園

杉安峡

宮崎県立  
西都原考古博物館 (P.5)

西都原ガイダンスセンター  
このはな館 (P.5)

都萬神社 (P.7)

さびく温泉

西都原古墳群

西都市役所

県立  
産業技術  
専門学校

高屋温泉

東九州自動車道

西都IC

綾町

本庄川

国富町

宮崎市

至宮崎西IC





# おすすめ観光ルート

西都・西米良の魅力がたっぷり味わえる  
とおきのスポット満載ルート

コノハナノサクヤヒメとイワナガヒメの伝説に想いを馳せながら、西都市・西米良村に点在する記紀にまつわる神話のスポット、西都原や米良街道の雄大な自然や観光スポットを巡ろう！

## 西都コース



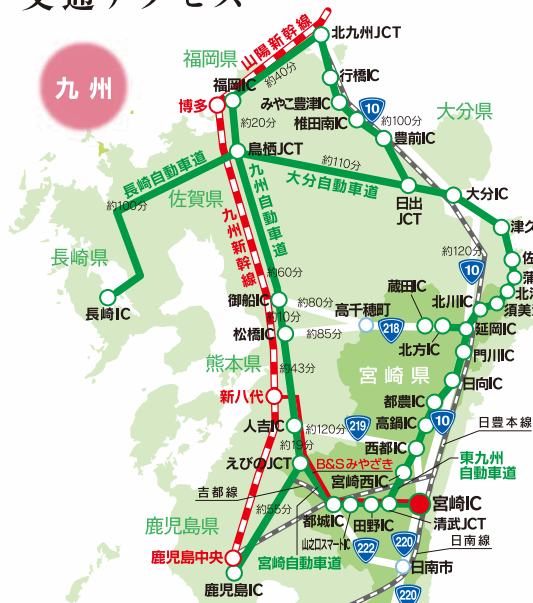
## 西米良コース



※険しい道となりますので、ご注意ください。

# 交通アクセス

※2017年2月現在の情報です



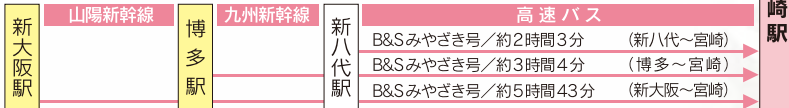
〔県内主要IC間所要時間〕  
宮崎西～延岡 約1時間16分  
宮崎～都城 約26分

## 高速バス 宮崎交通お客様バス案内センター ☎0985-32-0718

鹿児島 → 宮崎	約2時間45分	はまゆう号
熊本 → 宮崎	約2時間50分	なんぷう号
大分 → 宮崎	約3時間45分	パシフィックライナー
福岡 → 宮崎	約4時間30分	フェニックス号
長崎 → 宮崎	約5時間20分	ブルーロマン号
鹿児島 → 宮崎	約9時間55分	ひなたライナー

## 新幹線・JR特急

JR 宮崎駅  
☎0985-23-3454



※所要時間は最速

## 空路 (宮崎空港)

東京 → 宮崎	約90分	ANA, JAL, ソラシドエア	全日空 (ANA) 国内線 ☎0570-029-222	IBEX エアラインズ ☎0120-686-009
名古屋 (中部) → 宮崎	約75分	ANA	日本航空 (JAL) ☎0570-025-071	アジアナ航空 ☎0570-082-555
大阪 (関西) → 宮崎	約65分	Peach	ソラシドエア ☎0570-037-283	チャイナエアライン ☎0985-64-9811
大阪 (伊丹) → 宮崎	約60分	ANA, JAL	Peach ☎0570-064-731	香港航空 ☎098-987-0622
福岡 → 宮崎	約45分	ANA, JAL, IBEX		
沖縄 → 宮崎	約80分	ソラシドエア		
ソウル (仁川) → 宮崎	約100分	アジアナ航空		
台北 (桃園) → 宮崎	約120分	チャイナエアライン		
香港 → 宮崎	約180分	香港航空		

## カーフェリー (宮崎港)

三宮 (神戸港)	19:10 発 (月～土) 18:00 発 (日)	→	翌日 8:40 着	宮崎	宮崎カーフェリー予約センター 神戸 ☎078-321-3030 宮崎 ☎0985-29-5566
	翌日 7:30 着	←	19:10 発		

宮崎県商工観光労働部観光経済交流局観光推進課  
記紀編さん記念事業推進室

〒880-8501 宮崎市橘通東2丁目10番1号 電話:0985-26-7099 FAX:0985-26-7327